

YOTUKA

エンジン式薪割り機 YS-MKWR20T

詳細は
WEB取説



目次

1. 安全に正しくお使いいただくために	2-3
2. 梱包部品一覧	4
3. 多面図	5
4. 組立て	6-9
5. 使用前の準備	10-11
6. 操作の方法	12-13
7. 作業の方法	14
8. メンテナンス	15-16
9. 牽引による移動 / 保管	17
10. 困ったときの対処法	18
11. 分解図	19
12. 主要諸元 / 保証内容について	裏表紙

取扱説明書【初版】

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みになり、機能を十分にご理解のうえ、末永く
ご愛用ください。
お読みになった後は、お手元に大切に保管してください。

燃料

無鉛レギュラーガソリン



エンジンオイル・作動油は入っていません。

使用工具

別途ご用意ください

- ・ラジオペンチ(またはペンチ)
- ・ゴムハンマー
- ・スパナ13mm/17mm/19mm 各2本
- ・マイナスドライバー
- ・ワイヤブラシ



安全に正しくお使いいただくために

あなたや周囲の人へのけが、および財産への損害を防ぐため、ご使用前に必ずお読みください。

マークの 意味と種類

ご使用前に
ご確認ください



警告

死亡または重傷を負う
恐れがあります。



してはいけない「禁止」内容です。



注意

軽傷、物的損害、故障が生じる
恐れがあります。



必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

ご使用前について



- 指定された用途以外には使用しないでください。
本機は、木を薪に加工する機械です。指定された用途以外には使用しないでください。

- 改造、分解は行わないでください。
安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、弊社の保証サービスは一切受けられなくなります。

- 以下に該当する方は使用しないでください。
 - ・正しい操作を理解していない方
 - ・妊娠中の方
 - ・身体の調子が悪い方
 - ・酒類を飲用、薬物を服用し判断力が低下している方
 - ・未成年者(作業する場合は、保護者等の監督下で行ってください。)



- この説明書をお読みにになり、取扱の注意事項をよく理解したうえでご使用ください。

- 使用前に点検を実施してください。

- ・損傷がないか
- ・組立は正しくできているか
- ・ネジ等の締め付けは十分か
- ・正常に作動するか
- ・所定機能を発揮するか

- 部品交換は、純正部品を使用してください。

- 不測の事態に備え、救急箱、タオル、外部連絡用電話を用意してください。

作業について



- 運転中、可動部に手足を近づけないでください。
 - ・けがの恐れがあります。



- 使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- 使用中に異物に当たったり、異物が絡んだりした場合には、速やかに停止させてください。
- 適切な間隔で休憩をとってください。

作業環境について



- 視界が悪いときは使用しないでください。
 - ・夜間 ・悪天候時 ・霧の発生時 など

- 不安定な場所では使用しないでください。
 - ・滑りやすい場所 ・転倒しやすい場所
 - ・急斜面 ・草地 ・砂利
 - ・地面が柔らかい不安定な場所
 - ・はしごや脚立の上 など

- 揮発性可燃物、腐蝕ガスのある場所では使用しないでください。



- ご使用時は人やペットが近づかないようにしてください。
 - ・使用者から15m以内は危険です。

- 気温が高い時の作業は避けてください。
 - ・熱中症になる恐れがあります。

服装について



- 作業に適した服装を着用してください。
 - ・長袖 ・長ズボン ・安全靴 ・保護メガネ
 - ・耳栓 ・防塵マスク など
 - (機械の可動部に絡まるような衣類、装飾品、タオルは着用しないこと。)

- 長い髪は束ね、帽子やヘルメットでカバーしてください。

エンジンについて



- ご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。



- エンジンやマフラーが高温になるため、運転中や停止直後は、絶対に触れないでください。
 - ・やけどをする恐れがあります。

- 引火を防ぐため、下記のことはしないでください。
 - ・エンジンが熱いうちは、給油しない。
 - ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけない。
 - ・燃料の臭いがする場合、運転をしない

警告

- ・運転時、給油時は喫煙など火気を発生させない。
- ・点火源となるような機器の近くに保管しない。
- ・エンジンの周りに、草や木クズなど燃えやすいゴミを蓄積させない。
- ・本機を密閉された場所に燃料を入れたまま放置しない。

(燃料が蒸発し、爆発する危険があります)

●排気ガスによる中毒を防ぐため、下記のことはいしないでください。

- ・排気ガスを吸入しない。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけない。
- ・周囲の動植物等に排気ガスを当てない。

●エンジンがかかっている状態で本製品から離れないでください。

●危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。

●引火を防ぐため、給油時は下記の通りになしてください。

- ・燃料漏れがないか点検・確認する。
- ・タバコ等の火気が付近にないことを確認する。
- ・身体に帯電した静電気を除去する。
- ・燃料が衣服に付いた場合、すぐに着替える。
- ・こぼれた燃料はきれいに拭き取り、拭いた布等は処分する。
- ・燃料タンクの給油限界位置を超えないようにする。

(温度上昇によって燃料が膨張し、漏れる恐れがあります)

- ・給油後は燃料タンクを確実に閉める。

●運搬・保管については、下記の通りにしてください。

- ・少しの移動でもエンジンを停止し、ハンドルを持って運搬する。
- ・自動車で運搬する時は、エンジンを停止した後、燃料タンクの燃料を抜き、燃料コックを閉じる。
(振動等により燃料が漏れることがあります。)
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管する。

薪割り機について



●作業前に刃・ビーム(H鋼)・台座に曲がりや亀裂、破損がないか確認してください。

●必ず1人で全ての操作を行ってください。

- ・薪を置く人とレバーを引く人が別だと、タイミングのズレで指を挟む可能性があります。



●運転中に可動部(刃・ビーム等)に手や足及び衣類を絶対に近づけないでください。

- ・触れると巻き込まれ重大な事故の恐れがあります。

●運転中は絶対薪を覗き込んだり、刃と薪の近くに手を近づけないでください。

- ・割れた時の反動で、薪が飛び出すことがあります。



●刃に触れるときは、必ず手袋を着用してください。



●運転中は点火プラグキャップに触らないでください。

- ・感電する恐れがあります。

注意

保管について



- 定期的に点検、整備を行ってください。
- 部品交換は純正部品を使用してください。
- 本機を長期間使用しないときは、下記のような場所に保管してください。
 - ・直射日光が当たらない屋内
 - ・風通しがよい場所
 - ・子供の手の届かない安全な場所

薪割り機のお手入れについて



- お手入れは水拭き、または中性洗剤で行なってください。
 - ・強酸・強アルカリ性の薬剤、シンナー、ベンジン等は、素材を傷め、ひび割れや故障の原因となるため、絶対に使用しないでください。

梱包部品一覧

● 製品の破損や部品の不足がないかご確認ください。

- ・製品が破損している場合は、1週間以内に運送会社へご連絡ください。
- ・梱包部品が不足している場合は、弊社へご連絡ください。

● 確認が済むまで梱包材は捨てないでください。

- ・故障や破損などが発覚し、弊社に郵送いただく事になった際に使用します。

別途ご用意ください

- ・作動油(AW32またはAW46)
- ・ガソリン
- ・エンジンオイル(SAE10W-30)



ビーム(H鋼)



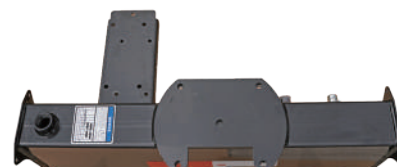
エンジン



油圧シリンダー



牽引ロッド



オイルタンク



シリンダーカバー



タイヤ



フランジ



(1-1) (1-2)



(2-1) (2-2) (2-3)



(3-1) (3-2) (3-3) (3-4)



刃



車軸



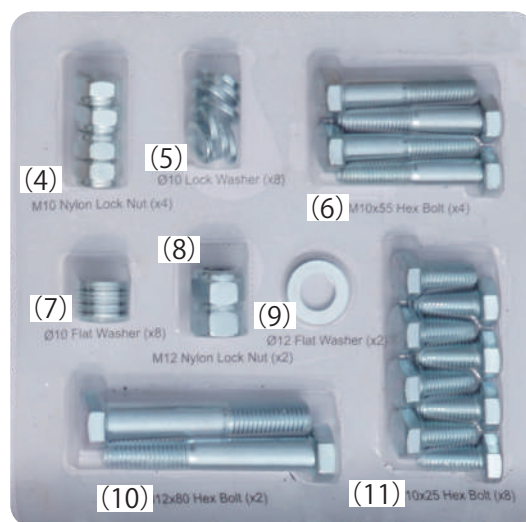
オイルホース



透明オイル
ホース



車軸カバー



- | | |
|---------------------|-------------------|
| (1-1) ボルトM12×65 | (4) ナットM10 |
| (1-2) ナットM12 | (5) スプリングワッシャーΦ10 |
| (2-1) ボルトM12×35 | (6) ボルトM10×55 |
| (2-2) スプリングワッシャーΦ12 | (7) ワッシャーΦ10 |
| (2-3) ワッシャーΦ12 | (8) ナットM12 |
| (3-1) ボルトM8×40 | (9) ワッシャーΦ12 |
| (3-2) スプリングワッシャーΦ8 | (10) ボルトM12×80 |
| (3-3) ワッシャーΦ8 | (11) ボルトM10×25 |
| (3-4) ナットM8 | |



車軸カバー
取付用キャップ



割りピン



オイルゲージ



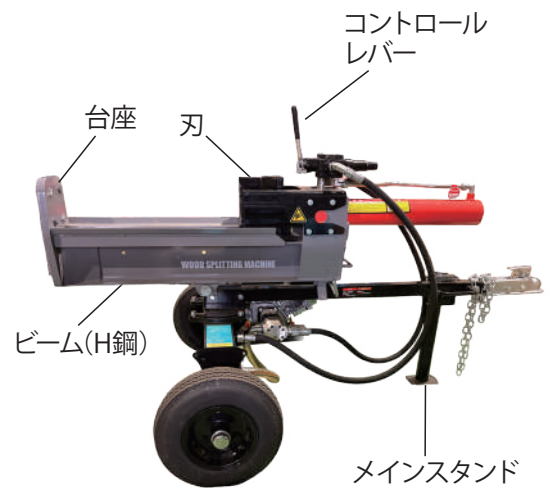
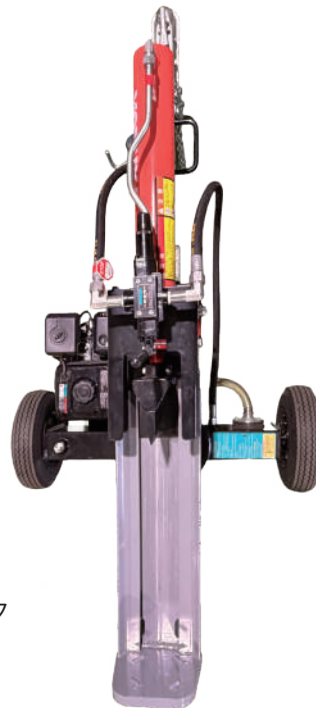
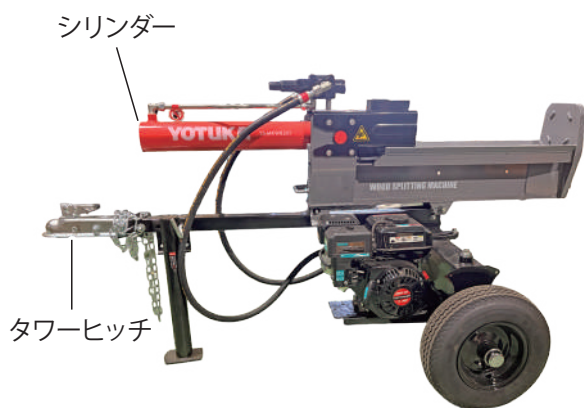
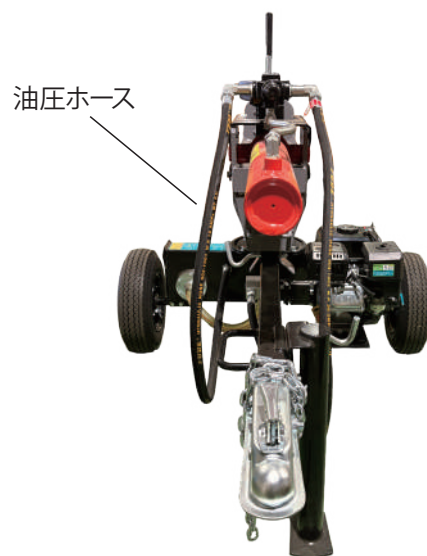
プラグレンチ



モンキーレンチ

※弊社では日々製品(部品やカラーも含め)の改良を行なっています。そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
※製造時期により仕様変更になる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。

多面図



組立て

⚠ 注意

- ・製品は重量物になります。二人以上で組み立ててください。
- ・手袋を着用して組み立ててください。

●以下の工具を別途ご用意ください

- ・ラジオペンチ(またはペンチ)
- ・ゴムハンマー
- ・スパナ13mm/17mm/19mm 各2本
- ・マイナスドライバー

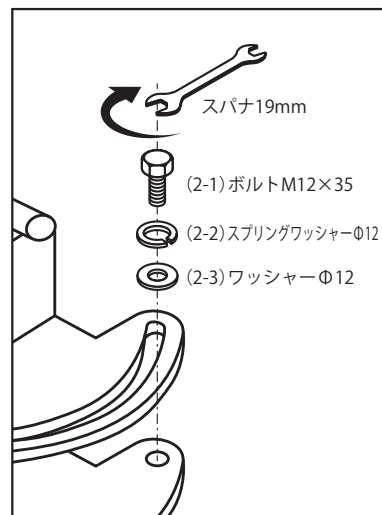
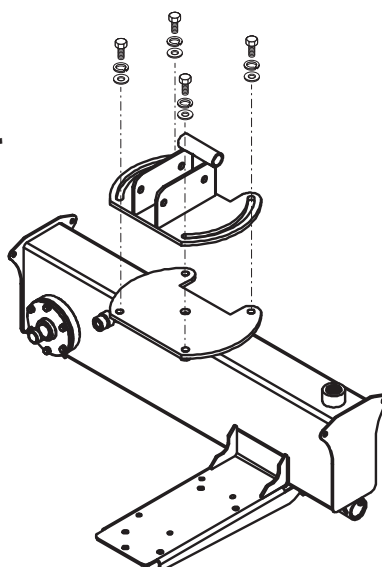
組立て動画

二次元コードから
「よくあるご質問」を
ご確認ください



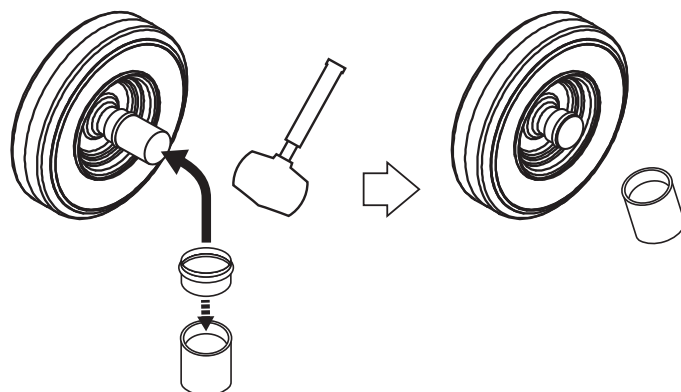
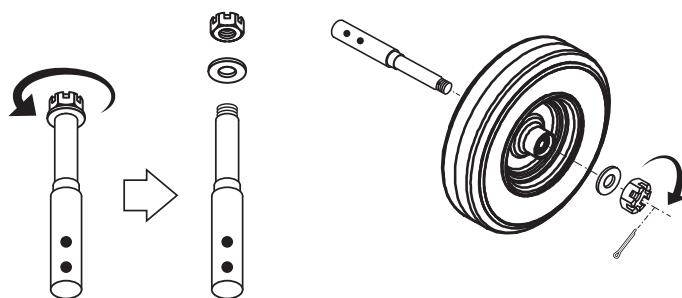
1 オイルタンクとフランジの取り付け

- ①フランジをオイルタンクに取り付けます。
- ②(2-1) ボルトM12×35、(2-2) スプリングワッシャーΦ12、(2-3) ワッシャーΦ12を取り付けます。(計4箇所)
- ③スパナ(19mm)で締め付けます。



2 タイヤと車軸の取り付け

- ①車軸に付いているナット、ワッシャーを取り外します。
- ②車軸をタイヤに差し込み、先ほど取り外したワッシャーを通し、ナットを回して締め付けます。
- ③割りピンを挿入し、先を折り曲げます。
- ④車軸カバーに車軸カバー取付用キャップをはめ込みます。
- ⑤車軸キャップをタイヤに取り付け、ハンマーで軽く叩き込みます。
- ⑥タイヤの車軸をオイルタンクの軸受に挿入して、六角ボルトM10×55、ナットM10で締め付けます。



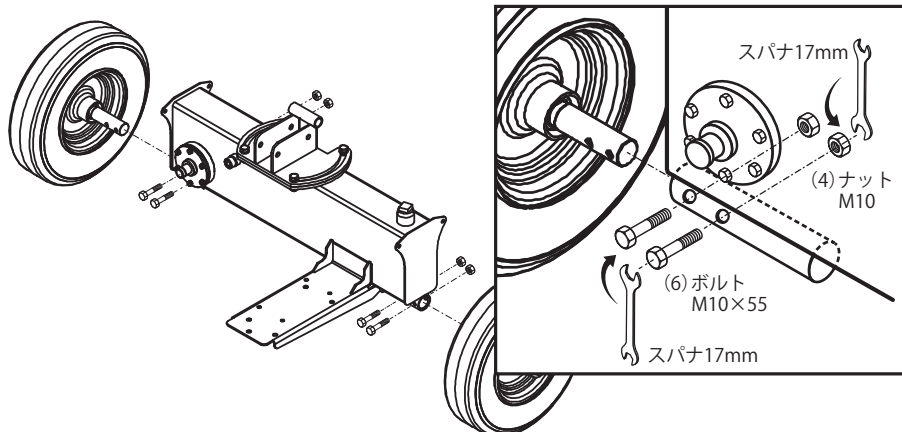
⚠ 注意

キャップをハンマーで強く叩きすぎると割れてしまいますので、優しく、徐々に叩いてください。

組立て

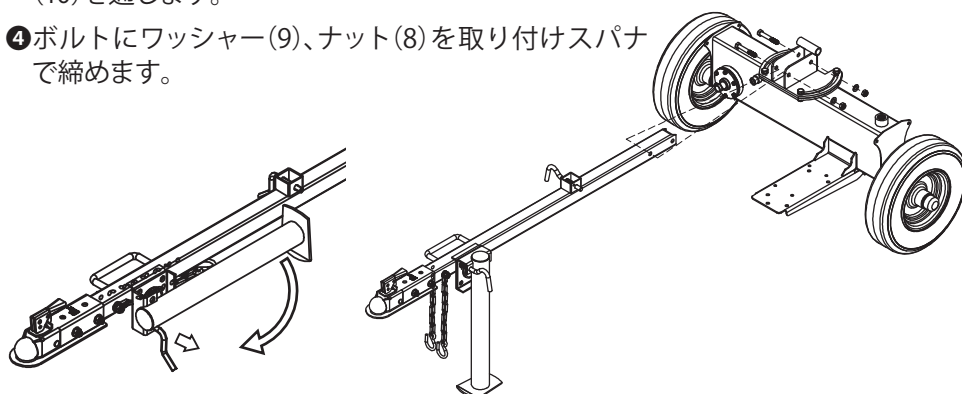
2 タイヤとオイルタンク取り付け

- 1 タイヤに取り付けた車軸をオイルタンクの車軸受けに通します。
- 2 車軸受けの取付穴にボルト(6)を通します。
- 3 ナット(4)を取り付け、スパナで締めます。



3 メインスタンドとオイルタンクの取り付け

- 1 牽引ロッドのレバーを引き、スタンドを開きます。
- 2 牽引ロッドをオイルタンクに取り付けます。
- 3 牽引ロッドとオイルタンクの接続部の取付穴にボルト(10)を通します。
- 4 ボルトにワッシャー(9)、ナット(8)を取り付けスパナで締めます。

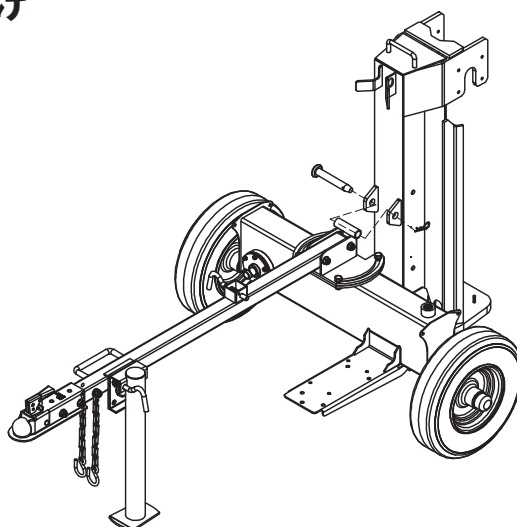


4 オイルタンクとビームの取り付け

- 1 ビームを立てます。
- 2 シャフトに取り付けてあるRピンを引き抜き、シャフトを取り外します。
- 3 ビームとオイルタンクの接続部を合わせ、シャフトを通し、Rピンを挿入します。

⚠ 注意

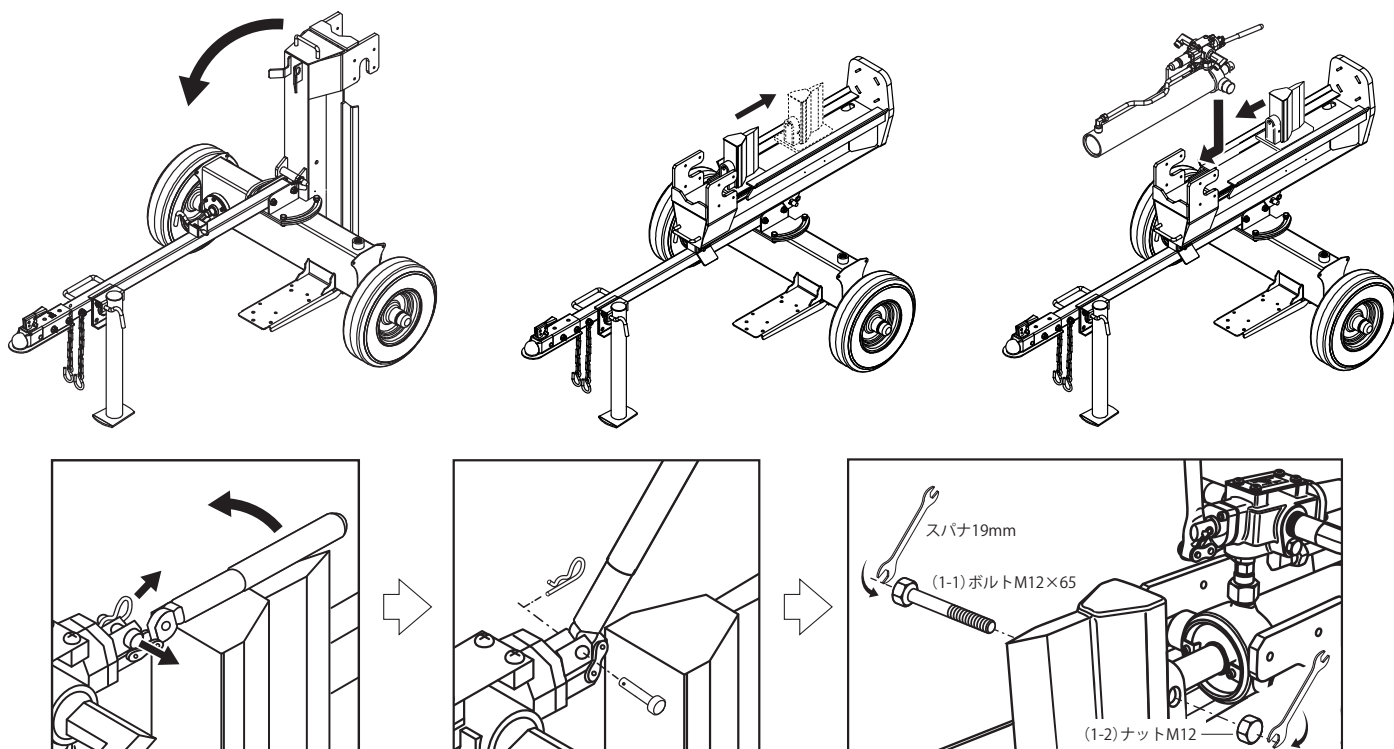
- ・ビームは非常に重いので、2人以上でゆっくり立ててください。
- ・ビームが倒れないようにご注意ください。



組立て

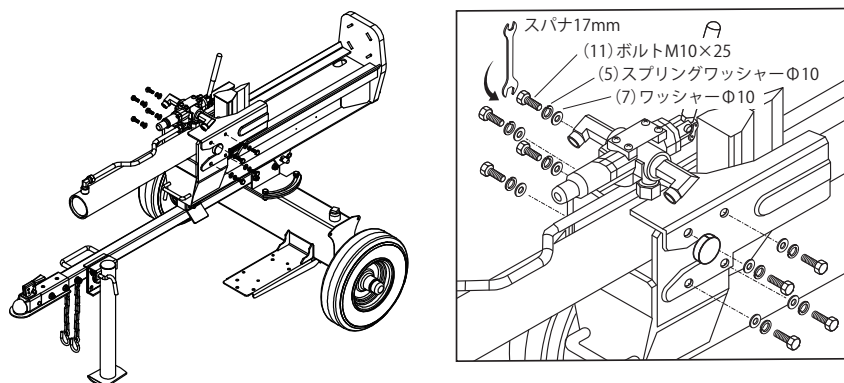
5 刃と油圧シリンダーの取り付け

- ① 取り付けした車軸を軸にして、本体を90°回転させます。
- ② 刃をビームに取り付け、一旦ビームの中央あたりにスライドします。
- ③ 油圧シリンダーを取り付け、刃を油圧シリンダー側に移動します。
- ④ レバーのシャフトに付いているRピンを取り外しシャフトを引き抜きます。
- ⑤ レバーを起こし、先ほど取り外したシャフトとRピンを取り付けます。
- ⑥ 刃とシリンダーの接続部に(1-1)ボルトを差し込み、ナットM12を締め付けます。



6 シリンダーカバーの取り付け

- ① シリンダーカバーを取り付けます。
- ② ボルト(11)にスプリングワッシャー(5)、ワッシャー(7)を通し、スパナで本締めします。



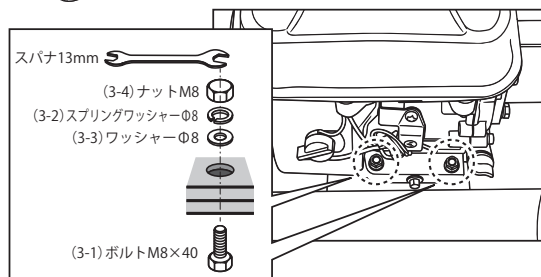
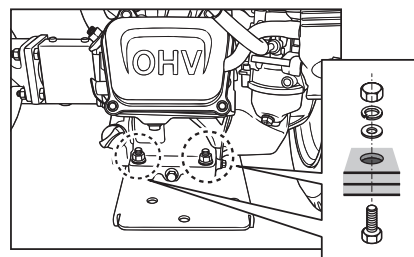
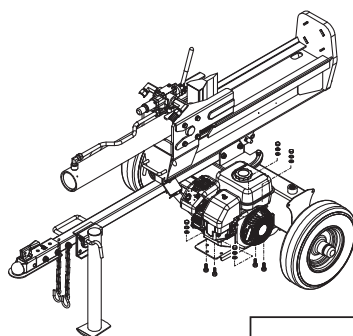
組立て

7 エンジンの取り付け

- ① オイルタンクの台座にエンジンを取り付けます。
- ② 台座の下からボルト (3-1) を取り付けます。
- ③ ボルトにワッシャー (3-3)、スプリングワッシャー (3-2)、ナット (3-4) を取り付け、スパナで本締めします。

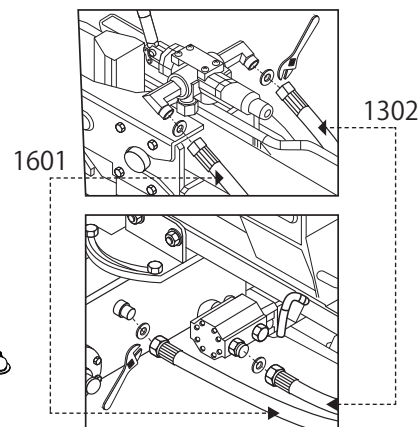
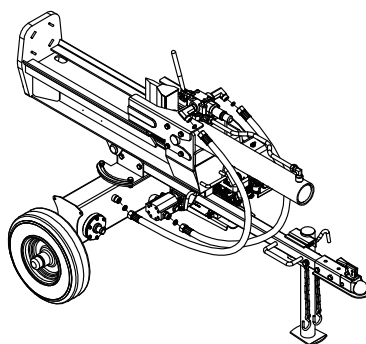
⚠ 注意

エンジンを落下させないよう、ご注意ください。



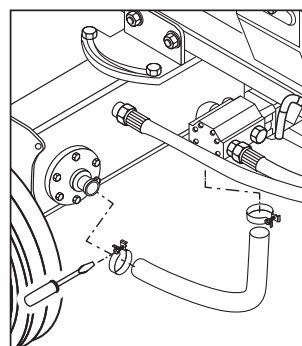
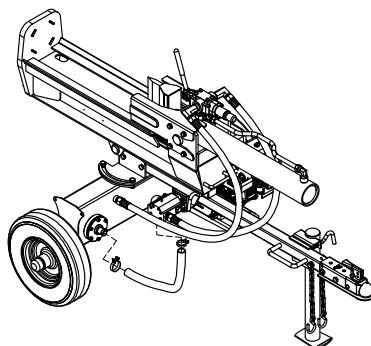
8 オイルホースの取り付け

- ① オイルホースは2種類あります。
1601、1302の記載を確認してください。
- ② オイルホースのキャップをマイナスドライバーで取り外します。
- ③ オイルホースを取り付け、モンキーレンチで締め付けます。



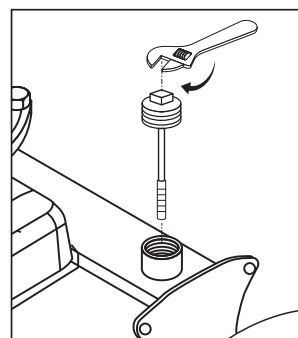
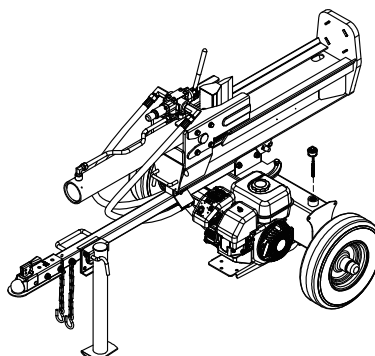
9 パイプの取り付け

- ① 透明オイルホースのホースクランプをマイナスドライバーで緩めます。
- ② エンジンの取付部に透明オイルホースを取り付け、ホースクランプをマイナスドライバーで締め付けます。



10 オイルゲージの取り付け

- ① オイルタンクの取付部に、オイルゲージを取り付けます。
- ② オイルゲージをモンキーレンチで締め付けます。



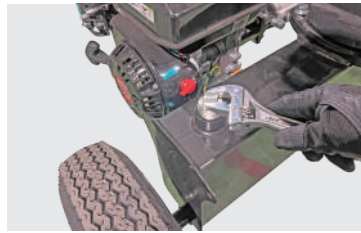
使用前の準備

1 作動油の給油

出荷時、作動油は入っていません。ご使用前に必ず給油してください。

- ①モンキーレンチ等でゲージを回し、引き抜きます。
- ②オイルを給油します。

使用作動油	AW32、AW46
おすすめ作動油量	約11L



ゲージを回し引き抜く



給油する

⚠ 注意

工場で試運転した際のオイルが残っている場合があります。オイルは少しずつ量を確認しながら給油してください。

2 作動油の確認

レベルゲージにオイルが付着していると正確なオイル量を測れないため、下記の手順で一度拭いてから確認・給油をしてください。

- ①ゲージを回し、引き抜きます。
- ②布などでゲージを拭きます。
- ③ゲージを差し込みます。
- ④ゲージを引き抜き、オイルの位置を確認します。
- ⑤【オイル量が適正の場合】

ゲージを差し込み、閉めます。

【オイルが少ない場合】

オイルを少しずつ給油します。

※②～④の手順で量を確認しながら給油してください。

【オイルが多い場合】

ドレンボルトを緩め、廃油受けに排出させます。

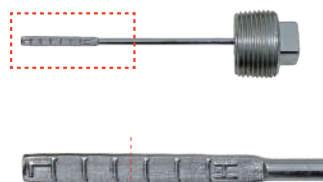
※②～④の手順で量を確認しながら給油してください。



オイルを拭き取る



ゲージを差し込み、引き抜く



オイルの付着がこの範囲に収まっていれば適量です



タンク底面にあるドレンボルト
モンキーレンチ等で外し、廃油する

⚠ 注意

給油後、初めて本機を稼働させると、オイルが配管やシリンダー内を循環するため、オイル量が減少します。給油後は運転操作の仕方「始動の仕方」を参照し、一度稼働させてください。その後、手順②～⑤で適量が確認し、適量でない場合は作動油を追加してください。

使用前の準備

3 エンジンオイルの給油

出荷時、エンジンオイルは入っていません。ご使用前に必ず給油してください。

- ①モンキーレンチ等でゲージを回し、引き抜きます。
- ②オイルを給油します。

推奨オイル	SAE10W-30
オイル容量	0.6L



ゲージを回し引き抜く



給油する

⚠ 注意

工場で試運転した際のオイルが残っている場合があります。オイルは少しずつ量を確認しながら給油してください。

4 エンジンオイルの確認

レベルゲージにオイルが付着していると正確なオイル量を測れないため、下記の手順で一度拭いてから確認・給油をしてください。

- ①ゲージを回し、引き抜きます。
- ②布等でゲージを拭きます。
- ③ゲージを差し込みます。
- ④ゲージを引き抜き、オイルの位置を確認します。
- ⑤【オイル量が適正の場合】

ゲージを差し込み、閉めます。

【オイルが少ない場合】

オイルを少しずつ給油します。

※②～④の手順で量を確認しながら給油してください。

【オイルが多い場合】

ドレンボルトを緩め、廃油受けに排出させます。

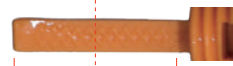
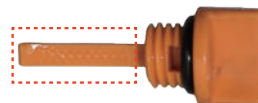
※②～④の手順で量を確認しながら給油してください。



オイルを拭き取る



ゲージを差し込み、引き抜く



オイルの付着が
この範囲なら適量です



エンジンのドレンボルト
モンキーレンチ等で外し、廃油する

5 燃料の確認、給油

- ①キャップを開けます
- ②エンジンに燃料を給油します。(赤いプレートを超えないようにしてください)

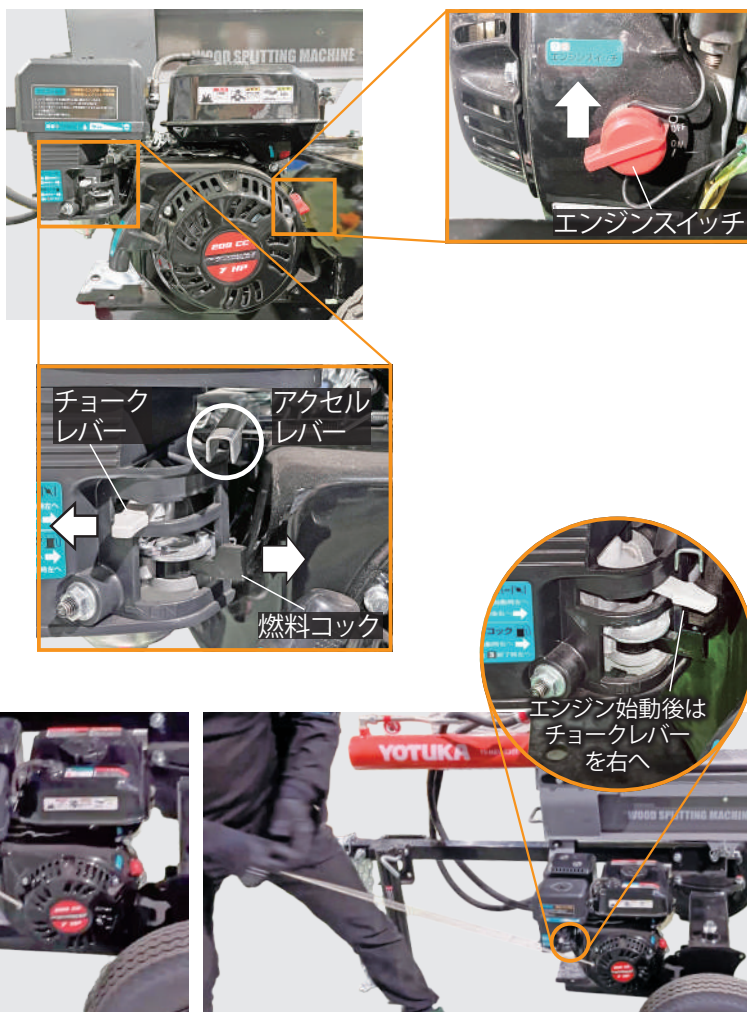
燃料	無鉛レギュラーガソリン
タンク容量	3.6L



操作の方法

1 エンジンの掛け方

- 1 アクセルレバーを、「うさぎマーク」と「かめマーク」の中間にします。
- 2 チョークレバーを左いっぱい「閉」にします。
- 3 燃料コックを右いっぱい「ON」にします。
- 4 エンジンスイッチを「ON」にします。
- 5 コントロールレバーがニュートラルの位置にあることを確認する。(2)シリンダーの動かし方【横】を参照)
- 6 本機をしっかりと保持し、リコイルスターターロープを引きます。
※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。
- 7 エンジン始動後はチョークレバーを右いっぱいに動かします。

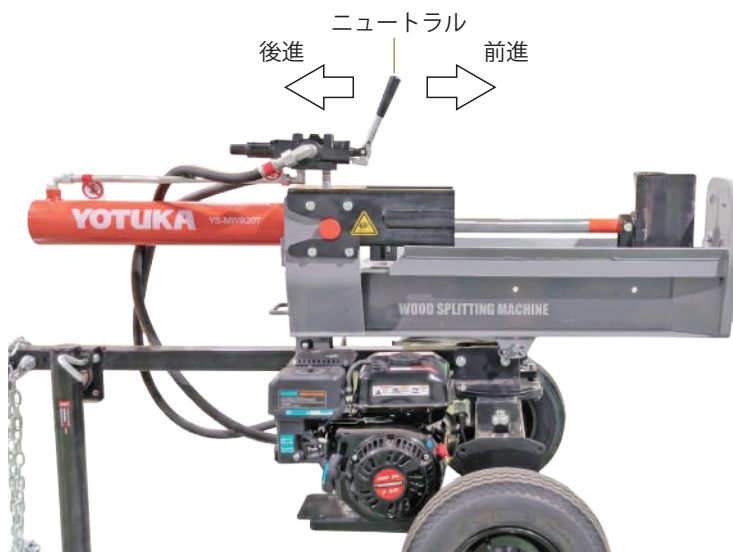


止まる位置までロープを引く

ロープを勢いよく引き抜く

2 シリンダーの動かし方【横】

- 1 レバーを倒し、刃を動かします。
- 2 シリンダーを逆に倒し、刃を戻します。



操作の方法

3 シリンダーの動かし方【縦】

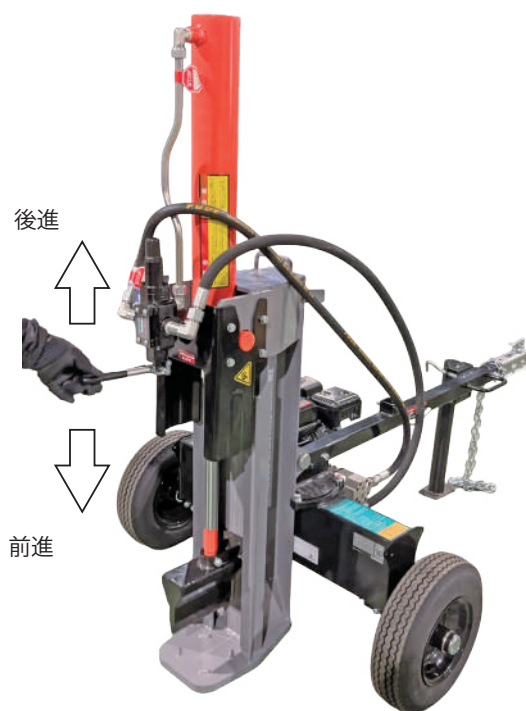
- ① ジョイントレバーを引いたままビームを持ち上げます。
- ② ビームを最後まで持ち上げて、立てます。
- ③ 台座を垂直にします。
- ④ レバーを倒し、シリンダーを動かします。



ジョイントレバーを引く



ビームを立てる



作業の方法

1 縦割りの場合

- ① エンジンを掛けます。【エンジンの掛け方参照】
- ② 木材をビームの上に置きます。
- ③ レバーを倒し、刃を動かします。
- ④ 木材を割ります。
- ⑤ レバーを逆に倒し、刃を戻します。
- ⑥ 使い終わったらエンジンを停止します。



2 横割りの場合

- ① ジョイントレバーを引いたままビームを持ち上げ、立てます。
- ② エンジンを掛けます。【エンジンの掛け方参照】
- ③ 木材をビームの上に置きます。
- ④ レバーを倒し、刃を動かします。
- ⑤ 木材を割ります。
- ⑥ レバーを逆に倒し、刃を戻します。
- ⑦ 使い終わったらエンジンを停止します。



⚠ 警告

斜めにカットされた木材を割る際は、ビーム(台座)に接する面が最も大きくなるように配置してください。不安定な置き方をすると、作業中に木材が弾け飛ぶ恐れがあり危険です。



メンテナンス

長期間(1ヶ月以上)使用しないまま放置すると、タンク内のガソリンが劣化し、キャブレターの詰まりや故障の原因となります。以下の点にご注意ください。

【燃料を抜く】長期間使用しない場合、燃料コックが有る機種については必ずコックを閉じ、キャブレター内の燃料を完全に抜き取ってください。(燃料の抜き方参照)

【ガソリンの劣化を防ぐ】ガソリンは時間が経つと成分が変化し、エンジンがかからなくなるだけでなく、部品を損傷させる恐れがあります。燃料は常に新鮮なものを入れ、長期間入ったままや長期間保管していたガソリンは使用しないでください。

1 燃料の抜き方

- ①燃料タンクのキャップを取外し、タンク内の燃料を手動のポンプ等で抜きます。
- ②燃料コックを右(ON)にします。
- ③斜めについているボルトを緩めて、無鉛レギュラーガソリンを容器に受けます。キャブレターの燃料を抜くことができます。
- ④燃料を抜き終わったら、緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。

2 エンジンオイルの交換

- ①廃油受けを準備します。
- ②本機を水平な場所に移動します。
- ③オイル給油キャップを取外すと、オイルが抜けやすくなります。
- ④ドレンボルトを取外してオイルを抜きます。
- ⑤排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。
- ⑥新しいエンジンオイルをレベルゲージの中央まで入れます。
【操作方法 エンジンオイルの確認を参照】
- ⑦給油後は、確実にキャップを閉めます。

⚠ 注意

エンジンオイルの交換は、初回20時間、以降50時間毎に行ってください。

推奨オイル	SAE10W-30
オイル容量	0.6L

3 作動油の交換

- ①廃油受けを準備します。
- ②作動油タンクの底にあるドレンボルトを緩め、廃油受けに排出させます。
- ③排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。
- ④作動油タンクのオイルキャップを開け、新しい作動油を入れます。
【操作方法 作動油の確認を参照】

⚠ 注意

- ・作動油は高温で低粘度化し、性能低下や故障を招くため、「1時間運転・1時間休止」を心がけてください。
- ・作動油の交換は、100時間毎か、または1年に1回行ってください。

使用作動油	AW32、AW46
おすすめ作動油量	約11L

メンテナンス

4 潤滑油・グリスの塗布

- ① シリンダーやビーム (H鋼) に付着した木屑等を取除き、可動部に潤滑油やグリスを塗布します。
- ② スタンドに潤滑油やグリスを塗布します。
- ③ タワーヒッチとビーム (H鋼) の接続部に、潤滑油やグリスを塗布します。
- ④ タイヤシャフト部に、潤滑油やグリスを塗布します。

5 エアクリーナーの清掃

- ① エアクリーナーカバーの蝶ネジを反時計回りに回し、取外します。
- ② カバーを取外します。
- ③ エアフィルタの汚れをエアブロー等で吹き飛ばします。汚れがひどい場合は、エアフィルタの交換が必要になります。
- ④ 取外しと反対の手順で取付けます。



6 点火プラグの点検・清掃

●ワイヤブラシをご用意ください

- ① 点火プラグキャップを引き抜きます。
- ② 点火プラグをプラグレンチで取り外します。
- ③ 点火プラグをワイヤブラシで清掃します。
- ④ 取外しと反対の手順で取付けます。

※点火プラグは、点火プラグキャップにしっかりとめてください。はめ込みがあまいと点火しません。



点火プラグキャップを引き抜く



点火プラグ



プラグレンチで取り外す



ワイヤブラシで清掃

互換点火プラグ	BPR7ES (NGK)
---------	--------------

牽引による移動

1 牽引による移動の仕方

本機は牽引による移動が可能です。

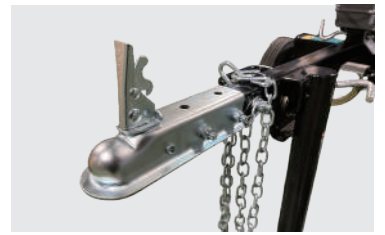
- ① タワーヒッチのラッチを固定しているボルトとナットをレンチで取り外します。
- ② ラッチを引き上げます。
- ③ 2インチのヒッチボールにタワーヒッチのカプラをかぶせます。
- ④ ラッチを倒し、ボルトとナットで固定し直します。
- ⑤ メインスタンドのレバーを引っ張ってロックを解除し、スタンドを上げて再びロックします。
※鎖は牽引走行中に外れないよう、任意の位置に掛けてください。

⚠ 警告

本機の牽引走行を公道で行うことは法律で禁止されています。私有地内のみで行ってください。



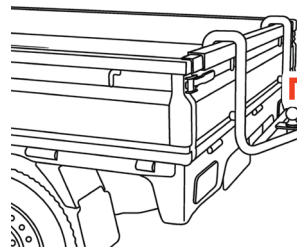
ボルトとナットを取り外す



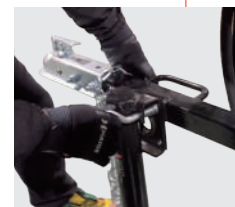
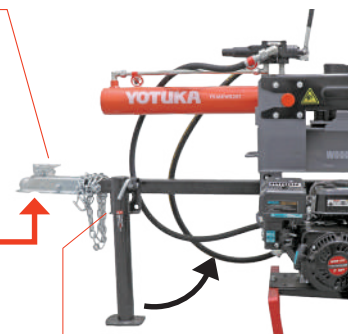
ラッチを引き上げる



ラッチを倒し、ボルトとナットで固定し直す。



※イラストは参考図です



レバーを引き、スタンドを上げる

保管

1 長期間使用しないとき

- ① 保管する時は、平坦で堅い地面に水平に横置きにし、タイヤ止めをしてください。
- ② 燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。(燃料の抜き方参照)
- ③ 各部ボルトの破損、腐食、緩みの点検をします。
- ④ 防錆を行います。
- ⑤ 湿気やホコリが少なく、子供の手が届かない場所に保管してください。
- ⑥ 屋外に保管する際は、雨や直射日光を避けるため、機械全体を覆うカバーを被せてください。
- ⑦ 長時間放置するとタイヤの空気圧が低下し、本機の自重を支えきれずにタイヤが変形するおそれがあります。そのため同じ箇所に荷重がかかり続けると偏摩耗や変形の原因になります。長時間保管する場合は、タイヤの同じ部分が常に地面に触れたままにならないよう、定期的に本機を少し移動してタイヤの接地位置を変えてください。

困ったときの対処法

●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	始動スイッチボタンの不良	メーカー、購入店に問い合わせ
	点火プラグ不良 (BPR7ES (NGK))	交換
	点火プラグキャップ接続不良	点火プラグをしっかりとめる
キャブレターに燃料が来ていない	燃料が入っていない	燃料を入れる
	燃料ホースの詰まり、漏れ	ホース清掃、交換
	燃料タンク錆び又は、異物混入による詰まり	交換、フィルタ清掃
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレターの詰まり (ニードル・バルブ固着)	キャブレター分解掃除 メーカー、購入店に問い合わせ
エンジンがかからない	オイルの入れすぎ	オイル交換
	オイルにガソリンが混ざっている	オイル交換
	コントロールレバーがニュートラルの位置になっていない。	ニュートラルにする (P12を参照)
リコイルスターターが引けない	コントロールレバーがニュートラルの位置になっていない。	ニュートラルにする (P12を参照)

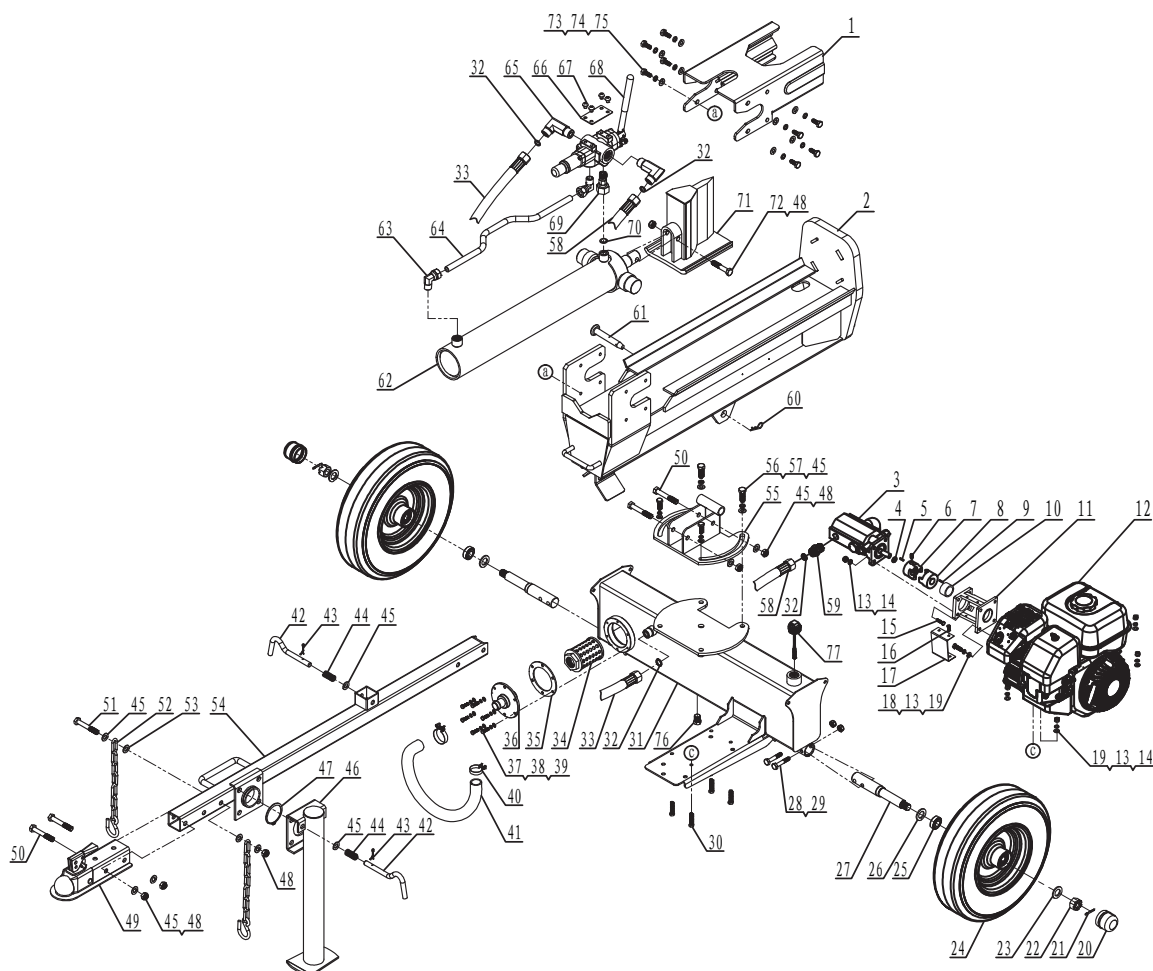
●シリンダが動かない

原因	対処
作動油の不足	作動油の補充
コントロールバルブの不具合 (分解図68番)	メーカー、購入店に問い合わせ
ギヤポンプの不具合 (分解図3番)	メーカー、購入店に問い合わせ

●シリンダ伸縮スピードが遅い

原因	対処
エンジンの回転数が低い	エンジンの回転数を上げる
作動油の不足	作動油の補充、または交換
作動油の汚れ	作動油の交換
コントロールバルブの不具合 (分解図68番)	メーカー、購入店に問い合わせ

分解図



番号	部品名	数量
1	シリンダーカバー	1
2	ビーム溶接品	1
3	ギアポンプ 13/1.8	1
4	軸用スチールスナップリング	1
5	ギアポンプ用平キー	1
6	ネジ M6x10	1
7	ギアポンプカップリング	1
8	エンジンカップリング	1
9	エンジン用平キー	1
10	エンジン軸スリーブ	1
11	ギアポンプスタンド	1
12	エンジン	1
13	ロックワッシャー Ø8	12
14	ナイロンロックナット M8	8
15	六角ボルト M8x30	4
16	六角ボルト M5x10	4
17	コネクターカバー	1
18	六角ボルト M8x25	4
19	平ワッシャー Ø8	8
20	アクスルキャップ	2
21	割ピン Ø4x35	2
22	六角溝付き薄ナット M20	2
23	平ワッシャー Ø20	2
24	ホイールアセンブリ	2
25	テーパローラーベアリング	4
26	オイルシール	2

番号	部品名	数量
27	ホイールアクスル	2
28	六角ボルト M10x55	4
29	ナイロンロックナット M10	4
30	六角ボルト M8x40	4
31	油圧リザーバー	1
32	Oリング Ø14x2.5	4
33	低圧油圧ホース	1
34	オイルフィルター	1
35	ラバーワッシャー	1
36	フィルター固定プレート	1
37	六角ボルト M6x20	6
38	ロックワッシャー Ø6	6
39	平ワッシャー Ø6	6
40	クランプ	2
41	クリアオイルパイプ	1
42	ピン	2
43	割ピン Ø3x30	2
44	スプリング	2
45	平ワッシャー Ø12	12
46	サポートレッグ	1
47	軸用サークリップ	1
48	ナイロンロックナット M12	6
49	2インチ カブラー	1
50	六角ボルト M12x80	4
51	六角ボルト M12x90	1
52	チェーンアセンブリ	2

番号	部品名	数量
53	厚ワッシャー	2
54	トウバーアセンブリ (牽引バー)	1
55	外部回転機構	1
56	六角ボルト M12x35	4
57	ロックワッシャー Ø12	4
58	高圧油圧ホース	1
59	ギアポンプコネクター	1
60	Rピン	1
61	ヒッチピン	1
62	シリンダー	1
63	コネクター	2
64	メタルチューブ (金属管)	1
65	アングルエクステンションジョイント	2
66	プレート	1
67	ネジ M8x10	4
68	コントロールバルブ	1
69	コンビネーションコネクター	1
70	Oリング Ø15x2.5	1
71	ウェッジ (くさび)	1
72	六角ボルト M12x65	1
73	六角ボルト M10x25	8
74	ロックワッシャー Ø10	8
75	平ワッシャー Ø10	8
76	オイルプラグ	1
77	フィルプラグ	1

【主要諸元】

モデル名	YS-MKWR20T
エンジン型式	rato エンジン
総排気量	196cm ³
始動方式	リコイルスターター
馬力	6.5HP
粉砕力	20 トン
サイクルタイム	オートリターン 8.5 秒
最大薪割り長さ	丸太直径 610mm
薪割り方向	縦横兼用
ウェッジ（刃）	単刃 8 インチ
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	3.6L
エンジンオイル	SAE10W-30
オイルタンク容量	0.6L
作動油流量	53L/min
作動油	AW32、AW46
おすすめ作動油量	約 11L
オイルポンプ圧	28.3MPa
互換点火プラグ	BPR7ES(NGK)
本体サイズ	1948 × 1185 × 1147mm
本体重量	176kg

※ 1 弊社は、顧客満足度 100% を目指し、日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

保証内容について

本規約は、ハイガー（以下「弊社」とする）を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。
弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますので安心ください。
返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

- 商品発送日（ご来店引取の場合ご来店日）から 1 年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は 6 ヶ月といたします。
- 保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。
- 商品発送日より 7 日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

- お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。（以下、この無料修理を「保証修理」とする）往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- 保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- 本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができない場合、保証が受けられない可能性があります。
- 本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

- (1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6) 弊社が認めていない改造をされたもの
- (7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8) 注意を怠った結果に起きたもの
- (9) 薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象（退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等）

- (11) 機能上影響のない感覚的な現象（音、振動、オイルのにじみ等）
- (12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
- (13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品（ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャープピン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等）
- (14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填（休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等）

4. 別扱いの保証

- 部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

- まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡をください。
またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。
症状・使用状況を伺い、お手続方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

- 動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。
- 部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。
- 仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。
- 仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。
- 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- 無在庫転売者（送り先が毎回違う購入者）の場合、転売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

■アフターサービスについて■

- 1. 販売機種が対象となります。
※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
- 2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- 3. 保証期間（1 年間）を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
- 4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
- 5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。

